

～ 猿ヶ石川 における

親水空間の維持と復元と創出！

概要

— H 1 7 岩手県多自然型川づくり担当者会議資料より

○ 猿ヶ石川を紹介します！

猿ヶ石川は、遠野市、宮守村、東和町、花巻市、北上市を流れている河川で、延長約 85km、流域面積約 952km² を有する北上川最大の左支川です。このうち、遠野地方振興局管内の管理延長は約 32.9km となっています。

昭和 56 年 8 月の台風 15 号においては、管内の河川の至るところで氾濫し、浸水家屋数約 750 戸を数える被害が出ています。

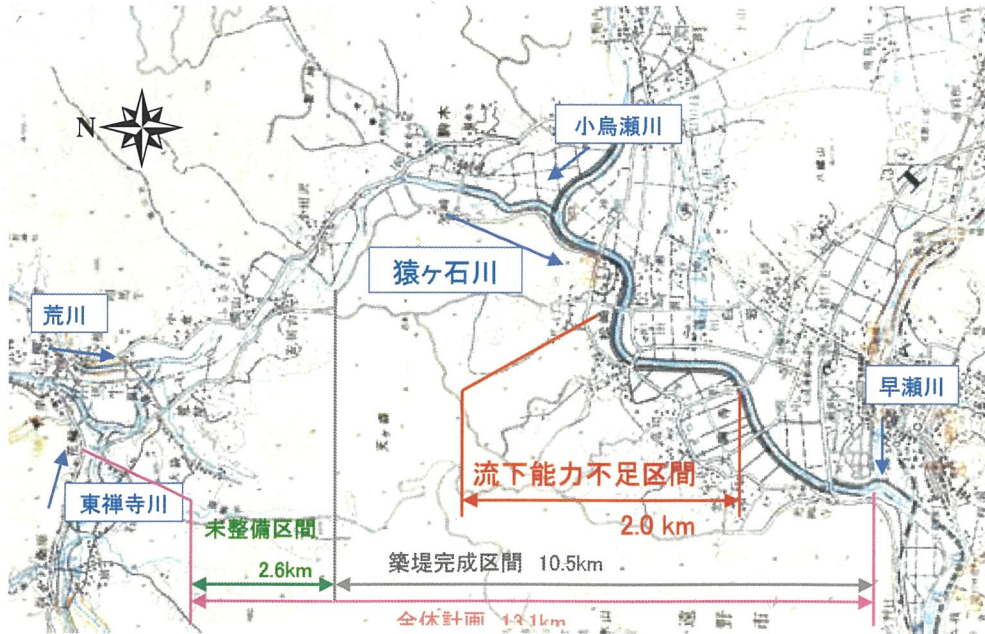


○ 事業概要

猿ヶ石川における基幹計画概要について説明します。

全体計画 13.1km のうち、築堤が完成している区間が、10.5km 程。残り 2.6km が、未整備区間となっています。

現在、築堤完成区間内の葉研淵橋と松崎橋との間の区間約 2.0km において、流下断面が不足しておりますので、その対策を重点的に行っています。



○ 問題点

さて、現在の猿ヶ石川が抱えている問題点ですが、まずは、先程申し上げました流下能力不足が挙げられます。その他に、この川の特徴としまして、マサ土であることが挙げられますが、低水路断面も小さいことから、流れが早く、河岸浸食や河床低下を引き起こしています。

また、これらの削られたマサ土は下流に堆積しまして、流下能力の不足を引き起こす原因となるのですが、その他に生態系への影響も懸念されているところです。

右の写真は、頭首工の下流における土砂堆積の様子です。頭首工の存在もあると思いますが、かなりの土砂堆積が見られます。

その下の写真は早瀬川との合流点の状況です。遠野においては、中心市街地を流れる早瀬川と、猿ヶ石川との合流点においては、毎年白鳥が飛来し、市民に親しまれる場となっています。こちらも上流から流れてきた土砂の堆積が顕著であり、白鳥の集う空間が少なくなっていると感じています。

○猿ヶ石川河川改修を考える会

さて、事業の進め方ですが、猿ヶ石川においては、平成8年度に最初の猿ヶ石川河川整備懇談会を開催しています。

このところの事業規模が小さいので、懇談会を縮小して「考える会」として開催しています。去年、一昨年に開催の際に出された意見を見ますと、整備要望のほかに右のような内容となっています。

地元では、災害防除に対しては、高く評価して頂いていますが、次の課題として、昔の河川環境の復活、つまるところ、植物や魚などの動植物関係について、関心が高くなっています。また、川に直接触れる機会が増えるような工事の整備について要望が出されています。

○河川整備の方向

これらの意見を受けながら流下能力の不足と、浸食の防止を図るため、猿ヶ石川における整備の方向をまとめますと、まず、流下能力の確保ですが、これまでの河川改修においては、ほ場整備との調整もあり、河道を掘下げまして流下断面を確保した経緯があります。このため、昔は砂利川であった猿ヶ石は、マサ土の川となったと言われています。

そこで、現在は掘下げは行わず、低水路の拡幅により断面確保を図っています。これにより流速を落とすことができ、下流への土砂流出を抑制することとしています。

次に、低水護岸工ですが、ブロックを張っての護岸の他に、管内の他工事現場で発生する石を、河岸に並べまして、暫定的ですが、浸食の防止を図っています。

具体的な搬出箇所は、現在行われている仙人道路であり、今年度も最大1万m³の発生が見込まれています。その他、遠野第二ダムのトンネル工事現場からも予定しています。

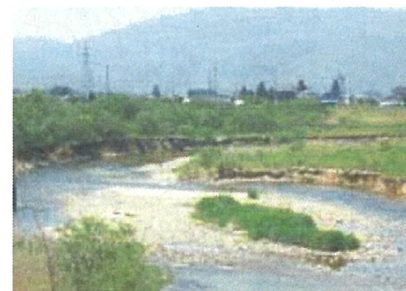
これらにより、土砂流出防止の他に、生物空間の復元・創出、そして親水空間の場を提供できるものと考えています。



- ①河床に砂が溜まり魚類の住めない川になってきている。
- ②昔のようなハマナス、月見草、ホテルのある河川にしたい。
- ③早瀬川との合流点の土砂を撤去して欲しい(白鳥関係)。
- ④子供が川で遊べるような河川工事を進めて欲しい。
- ⑤身体障害者等も川に接することができるように、スロープなどの整備を考えて欲しい。



「安心・安全な暮らし」は評価
新たに「親水性」についての提言が大



実際の事例を見ていきたいと思ひます。

こちらが河岸浸食を受けている箇所であり
ます。この箇所において、ブロック張り
と、捨石工を行った後が、こちらに
なります。

同様に河岸浸食を受けている箇所
について、手当てをした事例であり
ます。こちらの方は水制工に、発生材
を使用しています。

このほか、床止め工についても、
実施しています。

右の写真は、平成 14~15 年度に
施工した箇所ですが、14 年度に
施工した箇所につきましては、
植生の回復が見られます。

このほか、環境への配慮として、
希少植物の保護を行っております。
また、今回の捨石工の他にも
ワンドの創出などを行っており、
生息環境の確保を図っています。

親水空間としては、ベンチや花壇
等もありますが、当管内では、
猿ヶ石川沿いに自転車道である
「猿ヶ石さくらロード」が、整備
されており、地域住民の方々が、
気軽に河川へ出かける環境が、
整っています。

最後に、今後の展開としまして、
まず、より一層の住民参加型の
川づくりを進めたいと考えて
います。

現在の事業量で、なかなか住民
の声に応えるのは難しいですが、
現在の区長などの地区の代表者
だけではなく、幅広く意見を
もらえる場を、つくれたらと
考えています。

次に、実際の事業についてです
が、石の搬出元工事、18 年度
であらかた終了してしまいま
すので、現段階の内になるべく
確保するように努めていきたく
と考えています。

最後に、多自然型川づくりの
取組みには、住民参加が不可欠
です。河川清掃の機会や、自転
車道の利用も含め、住民の河
川への関心を高めながら、住
民協働をすすめていくことが
できたらと考えています。

河岸侵食防止対策(宮代橋下流)



植生の回復(葉研淵橋上流)



環境対策

- ・希少植物の保護
- ・ポーラスコンクリート護岸を使用し、植生の回復を図る
(覆土を実施し、在来種による植生の回復を図る)
- ・捨石工による魚類の生息環境の創出
- ・ピオトープ、ワンドの創出(稚魚の生息環境の創出)

